



#### 4 法人の沿革

本法人は東京都葛飾区の現在地に昭和22年洋裁学院を創立、同29年栄養士養成施設聖徳高等栄養学校設立の後、聖徳栄養専門学校に校名変更し、同校は昭和38年聖徳栄養短期大学に昇格しました。また、聖徳栄養専門学校調理師科から独立した調理師学校は昭和52年専修学校 聖徳調理師専門学校として認可、同年千葉県鎌ヶ谷市に幼稚園を開設しました。平成17年短期大学を四年制大学へ改組、名称を東京聖栄大学として開学し今日に至っています。平成19年創立60周年を機に法人名を学校法人東京聖栄大学と改称しました。

- 昭和22年 4月 オリムピア洋裁学院開校
- 昭和23年10月 財団法人オリムピア学園設立認可(文部大臣)
- 昭和26年 3月 学校法人オリムピア学園に組織変更認可(東京都知事)
- 昭和29年 3月 聖徳高等栄養学校設立認可(東京都知事)
- 昭和29年 4月 聖徳高等栄養学校を栄養士養成施設として指定(厚生大臣)
- 昭和32年 8月 オリムピア洋裁学院を「聖徳服飾専門学校」  
聖徳高等栄養学校を「聖徳栄養専門学校」に改称
- 昭和35年 2月 聖徳栄養専門学校に調理師科を設置。調理師養成施設として指定(厚生大臣)
- 昭和38年 1月 聖徳栄養短期大学の設置認可(文部大臣)
- 昭和38年 3月 聖徳栄養短期大学食物科第1部(後に食物栄養科さらに食物栄養学科第1部と改称)を栄養士養成施設として指定(厚生大臣)
- 昭和39年 3月 聖徳栄養専門学校の短期大学昇格に伴い同校栄養本科を廃止、  
4月1日より校名を「聖徳調理師学校」と変更
- 昭和41年 4月 聖徳服装専門学校を「聖徳服装学院」と改称
- 昭和52年 2月 聖徳服装学院及び聖徳調理師学校を専修学校として認可(東京都知事)  
聖徳服装専門学校、聖徳調理師専門学校と改称
- 昭和52年 3月 聖徳栄養短期大学附属わたなべ幼稚園設置認可
- 昭和60年12月 短期大学食物栄養学科第1部専攻課程設置認可  
(食物栄養専攻、食品科学専攻) (文部大臣)
- 平成元年 4月 短期大学食物栄養学科第1部を同第2部廃止に伴い「食物栄養学科」と改称
- 平成 4年 1月 服装専門学校廃止認可。(東京都葛飾区長・文部大臣)
- 平成 6年12月 調理師専門学校調理師専門課程専門調理技術科(修業年限2年)設置  
(東京都葛飾区長)
- 平成 7年12月 短期大学専攻科食物栄養専攻設置(文部大臣)
- 平成 8年 1月 短期大学専攻科食物栄養専攻学位授与機構長認定
- 平成 8年12月 調理師専門学校調理師専門課程専門技術修了者に専門士の称号授与の  
課程認定(文部大臣)
- 平成14年11月 短期大学食物栄養学科食品科学専攻製菓・製パンコースを製菓衛生師養成  
施設として指定(厚生労働大臣)
- 平成15年 5月 公開講座を葛飾区教育委員会と共催実施を締結
- 平成16年11月 東京聖栄大学設置認可(文部科学大臣)。開設時期平成17年4月1日
- 平成17年 2月 健康栄養学部食品学科食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成施設登録  
(厚生労働大臣)
- 平成17年 3月 健康栄養学部管理栄養学科の栄養士養成施設内容変更承認(厚生労働大臣)
- 平成17年 3月 健康栄養学部管理栄養学科の管理栄養士養成施設の指定(厚生労働大臣)
- 平成18年 5月 放送大学と単位互換協定締結
- 平成18年 9月 聖徳栄養短期大学廃止認可
- 平成19年 6月 法人名を学校法人東京聖栄大学に変更
- 平成21年 4月 東京聖栄大学健康栄養学部食品学科にフードサイエンスコース、フードビジネスコースを設置
- 平成21年 4月 聖徳調理師専門学校調理師専門課程調理師科入学定員120名を80名に変更
- 平成24年 4月 聖徳調理師専門学校調理師専門課程専門調理技術科廃止
- 平成25年 4月 聖徳調理師専門学校の校名を東京聖栄大学附属調理師専門学校と改称
- 平成26年 2月 健康栄養学部管理栄養学科の教職課程(栄養教諭一種免許状)課程認定  
(文部科学大臣)
- 平成26年 9月 葛飾区と連携・協力に関する協定締結(包括連携協定)

5 平成30年度入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、卒業生数

東京聖栄大学 健康栄養学部

学科	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	卒業生数
管理栄養学科	80	357	338	266	90	86
食品学科	80	154	148	137	87	67
計	160	511	486	403	177	153

東京聖栄大学 附属調理師専門学校

学科	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	卒業生数
調理師科 (1年課程)	80	35	34	34	32	28
計	80	35	34	34	32	28

東京聖栄大学 附属わたなべ幼稚園

	年少	年中	年長	計	卒園児数
定員	90	105	105	300	92
新入園児数	58	6	1	65	
園児数計	73	92	92	257	

<参考> <令和元年5月1日現在:入学定員、学生数の状況>

東京聖栄大学

		入学定員	収容定員	現 員
健康栄養学部	管理栄養学科	80	320	365
	食 品 学科	80	320	301
	計	160	640	666

東京聖栄大学 附属調理師専門学校

		入学定員	収容定員	現 員
	調理師科	80	80	31
	計	80	80	31

東京聖栄大学 附属わたなべ幼稚園

		認可定員	現 員
		300	243

<参考> <平成31年度 入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数>

東京聖栄大学 健康栄養学部

学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
管理栄養学科	80	340	320	267	94
食品学科	80	125	122	122	67
計	160	465	442	389	161

東京聖栄大学 附属調理師専門学校

学科	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
調理師科(1年課程)	80	32	32	31	30
計	80	32	32	31	30

東京聖栄大学 附属わたなべ幼稚園

	年少	年中	年長	計
募集人(定)員	90	105	105	300
新入園児数	49	8	2	59
園児数計	71	79	93	243

<参考> <令和元年5月1日現在:役員概要>

理 事 (現員 9人)	理事長	福澤美喜男					
	常務理事(教学担当)	田所 忠弘(学長・理事長補佐)					
	常務理事(総務担当)	高橋 成彰					
	常務理事(財務担当)	村上 秀男					
	理 事	阿左美章治(東京聖栄大学附属調理師専門学校長)					
	理 事(学事担当)	松本 信二					
監 事 (現員 2人)	監 事	飯島 満信					
	監 事	中村 甫尚					
評議員 (現員 20人)	第1号評議員(学長)	田所 忠弘					
	第2号評議員(学部長)	荒木 裕子					
	第3号評議員(園長)	萩原 和代					
	第4号評議員(校長)	阿左美章治					
	第5号評議員(専任職員)	筒井 知己	鈴木 三枝	鈴木 和男	丸山 信一		
	第6号評議員(卒業生)	高橋 興亜	立川 知子	関根 京子	犬塚 桂子		
	第7号評議員	福澤美喜男	高橋 成彰	村上 秀男	松本 信二		
	(学識経験・功労者)	鈴木 忠義	有馬 克彦	内堀 恵子	立原 とく		

## Ⅱ 平成 30 年度事業概要

各分野の平成 30 年度における事業概要とその結果について、下記のとおり報告いたします。

### <大学（教育研究等）>

#### 1 自己点検活動と認証評価の受審

平成 30 年度は、平成 24 年度から毎年度継続している「自己点検評価検討委員会規程第 5 条・別表」（各組織体の自己点検報告）を作成・学内公表しました。さらに「平成 30 年度自己点検評価書」を作成し、ホームページ上に公表することで、大学の自己点検活動を社会に対して可視化しました。

平成 30 年度に受審した公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価（第三者評価）では「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」との評価結果を得ることができ、評価報告書においては、本学の<優れた点>として 3 点が明記・紹介されました。（注：P.15）

#### 2 FD 活動

平成 30 年度 FD 活動計画に基づき、教科打ち合わせ会、教員による授業公開（前後期）、学生による授業評価アンケート（前後期）、FD 研修会、教授会における FD 活動の適切な周知と協議を実施し、教育内容の改善・向上に努めました。

「授業公開」は、全専任教員に公開と参観を義務付けていることに加えて、非常勤講師も可能な限り参加する体制とすることにより、全学的な取組みが展開されています。参観と評価の結果は、授業公開参観報告書として相互に交換することにより、各教員が自らの授業方法・内容等を検証するとともに、他の講義者の優れた点を学ぶ機会として、前期・後期に亘り全学的な取組みとして展開しました。

「学生による授業評価アンケート」は、各授業担当教員が授業改善に生かすとともに、学生へのフィードバック（所見の公表）を行なったほか、平成 30 年度は、設問内容の見直し・変更を実施しました。

「研修会」は、文部科学省からの講師を迎え、SD との合同研修会として平成 30 年 8 月 22 日に開催したほか、学外の各種研修会への教員派遣等を行いました。

なお、平成 29 年度の活動内容を『FD 活動報告書』として取り纏め、学内教職員で情報共有を図っています。

これらの取組みについては、平成 30 年度に受審した認証評価において、「全専任教員に授業の公開及び参観を課しており、全学的な取組みとして教授方法の共有と改善を図っていることは評価できる。」との記述により、本学の<優れた点>として明記・紹介がなされました。

### 3 SD（スタッフ・ディベロップメント）

本学では、大学設置基準の改正によりSD（職員が大学運営に必要な知識や技能を身につけ、能力・資質を向上させるための研修等）が義務化されたことも踏まえ、平成28年8月31日付で『東京聖栄大学SD実施方針・計画』を策定し、この計画に基づき各年度毎の「職員研修計画」を定め、SDの推進に努めてきました。平成30年度は新規採用の事務系職員2名が安心して社会人としてのスタートを切り、職場に定着することを支援するため、新たに「新卒採用職員・チューター制度」を実施しました。

今後も、これらの方針・計画に基づき、日常業務の中での習熟（OJT）、本学が加盟する日本私立大学協会等が実施する各種研修会への教職員の派遣、新規入職者・幹部対象研修、外部講師を招いた研修会を学内で行うなど、SDの積極的な推進と、今後の大学運営を担い得る人材の育成に努めてまいります。

### 4 教育課程、学修指導と支援

教育内容・学修指導の更なる向上を目指し、平成30年度は、従来からの取り組みを継続する中で、特に、①平成29年度学修行動調査の結果を踏まえた学生の予習復習状況を改善させるための取り組みとして、Web上で公開しているシラバスをスマートフォンからも閲覧できるよう掲載方法を変更、②社会から求められる能力、知識・理解、汎用的技能等（ジェネリックスキルの評価）を測る外部テスト（PROG）を1年生及び4年生において実施、③学生の予習復習時間や勉強・成績に対する考え方を把握するための全学生を対象とした学修行動調査の実施と分析（6/22～7/7 スマホ等によりWEB調査 回答率87.3%）、④成績評価に対する信頼性を高める観点からの成績評価における客観的な指標と成績評価基準の平準化（平成31年3月20日教授会決定）、⑤学修成果可視化の観点から、本学アセスメントポリシーの改訂（機関レベルのみ → 機関レベル、教育課程レベル、科目レベル3段階）、⑥CAP制度の現状分析と成績優秀学生への緩和の検討、⑦シラバスの更なる改良（実務経験のある教員による授業科目についての記載、予習復習欄の補足）を行いました。

また、学生の国際性・グローバルな視野を養う機会を充実する取り組みとして、両学科で海外研修（管理栄養学科：ドイツ、食品学科：イタリア・調理師専門学校合同）を実施しました。

### 5 学長のリーダーシップ・ガバナンス（改正学校教育法への対応）

教授会の役割の明確化、学長のリーダーシップ・ガバナンスを主旨とする学校教育法の改正が行われたことから、本学においては、学長を議長とする「大学運営会議」を平成27年4月に設置しました。教育研究の方針、教授会の案件整理、大学運営上必要な事項等の審議を通じ、学長を補佐する組織として運用されています。

## 6 就職支援、学生支援

就職支援については、学生支援センター、教職員、就職支援アドバイザー、キャリア支援専門員、卒業生の企業関係者等々が連携し、個々の学生の志望を踏まえ、キャリア実現に向けた支援を実施しました。職業観の涵養、また食と栄養に関する職業についての正確な知識を学ぶことも目的のひとつとした授業である『キャリアリサーチ』『管理栄養士の基礎演習』『インターンシップ』等のほか、課外においては、通年に亘り、年次ごとの就職支援ガイダンス、求人情報の提供、個人別就職相談・指導、学内業界・企業説明会等を実施しました。また、公務員志望者のためには、学科別公務員ガイダンス、専門業者を活用した「公務員教養試験対策講座」、公務員論文対策講座等を実施し、卒業生を含め、平成30年度も一定の公務員合格実績をあげることができました。

本学の様々な就職支援が奏功し、平成30年度卒業・11期生については、開学以来初めて、就職内定率100%を達成することができました。

就職内定率 学部合計 100.0% (前年 99.4%、前々年 98.1%)

主な内定先

<公務員>

神奈川県栄養士、市川市栄養士、国立病院機構 関東信越グループ

<管理栄養士職等>

(医) IMS グループ、ウエルシア薬局(株)、エームサービス(株)、(医) 社団順江会 江東病院、西洋フード・コンパスグループ(株)、(株)セブン&アイ・フードシステムズ、日清医療食品(株)、(株)マツモトキヨシ、(株)メフォス、(株)LEOC

<一般企業>

イニシオフーズ(株)、銀座アスター(株)、コンフェックス(株)、(株)シー・アイ・シー、(株)シュクレイ、タリーズコーヒージャパン(株)、トオカツフーズ(株)、平塚製菓(株)、プライムデリカ(株)、(株)文明堂、(株)マルエツ、明治記念館、山崎製パン(株)、リゾートトラスト(株)、わらべや日洋(株)

学生支援の取組みについては、学生の奨学奨励と経済的支援を主旨とする本学独自奨学金の給付、学生支援機構奨学金の貸与・給付関係、学生意見を大学運営に生かす観点からの意見交換会やアンケートの実施、保健室の運用、学生団体への指導・助言等を行ない、大学生生活の充実と安定を図るよう必要な支援を行いました。

## 7 資格取得の支援

### 一 管理栄養士国家試験

平成30年3月30日に発表された第32回管理栄養士国家試験の本学10期生の合格率は98.6%であり、また、平成31年3月29日に発表された第33回管理栄養士国家試験の本学11期生の合格率は93.6%でありました。

今後も、国家資格の確実な取得、国家試験合格に向けて、更なる指導・支援を行

ってまいります。

- 一 食品学科では、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）、フードスペシャリスト資格、フードサイエンティスト資格取得支援のほか、平成 24 年度に登録機関として認定された食品微生物検査技士資格取得の支援を行い、9 名が合格しました。
- 一 両学科共通事項として、
  - ①学内で開催された HACCP 講習会の受講による HACCP 認定証取得（77 名）
  - ②MOS 試験（Microsoft Office Specialist）を定期的に学内で実施することにより、学生が情報処理資格を取得する支援を行ないました。平成 30 年度 合格者数 延 150 名（前年度 146 名）。学内で試験実施後の通算 658 名／5 年半
  - ③TOEIC 学内での団体受験 6 名（平成 30 年度初。教務委員会共通教育部会審議）

## 8 研究活動の活性化

### 一 研究環境の充実・整備

大学の質の向上が求められている観点から、研究の活性化は必要不可欠の要件であり、科研費をはじめとする公的研究費への応募の奨励と支援、学内研究費による研究活動の支援等を行い、平成 30 年 7 月 14 日には学内で研究発表会を開催するなどして、研究の活性化を図りました。

また、研究活動の適正を図る観点からは、ヒトを対象とした研究・調査等の倫理審査、動物実験の適正審査を法令・学内諸規程に基づき行ったほか、文部科学省ガイドライン、本学『研究活動の不正行為の防止等に関する規程』に基づくコンプライアンス教育を平成 30 年 12 月 10 日に実施し、研究活動の適正確保もあわせて推進しました。

### 一 受託研究

平成 30 年度は、復興支援の観点も含めて本学が継続的な支援を続けている福島県塙町からの「塙町産農産物等を使用した加工品の開発（その 7）」及び「菌床栽培キノコ類を用いた新規加工食品の開発、調理レシピの作成と商品化」を受託し、本学食品学科を中心としたプロジェクトチームによる研究活動（現地講習会を含む）を実施しました。地元自治体である葛飾区からは、前年度に引き続き、(1) ヘルシーメニューの開発及び試食会の実施、「えらべる食堂」メニューの栄養計算、元気食堂利用者を対象とした栄養相談、調査分析、フードフェスタでの普及 PR 等を内容とする『「かつしかの元気食堂」推進事業に関する研究』を受託し、本学管理栄養学科を中心としたプロジェクトチームにより、地域に根ざした食育推進、健康増進を図る研究活動が行なわれたほか、(2) 「竹パウダーを用いた野菜栽培における土壌菌叢（その 2）」の受託研究が行なわれました。

これらの受託研究の実施過程においては、担当教員の指導の下、本学学生も多数参加し有意義な教育機会ともなっています。



## 一 公的研究費

平成 30 年度は、新規案件として、本学専任講師を代表者とする「日本人高齢者における骨格筋量と筋血流量の関連」（平成 30 年度から 3 年間）が科研費・若手研究に採択されるとともに、本学教員を研究代表者とする科研費研究 3 件、研究分担者案件 3 件、計 6 件の研究が前年度に引き続き継続され、本学の研究水準を大いに高める研究活動が行なわれました。

## 9 大学図書館

平成 30 年度 年間延入館者数 15,406 名 貸出冊数 学生 2,585 冊 教職員 2,984 冊  
大学図書館については、専門書・政府刊行物を含む統計資料等、蔵書構成の充実やレファレンスサービスの充実に努めた他、図書館の学習支援活動の一環として、新入生・3 年生（食品学科）を対象とした利用ガイダンス、必修科目『リテラシー』授業内でのガイダンスを行いました。その他、機関リポジトリの運用・本学コンテンツの充実（大学等研究機関の知的生産物を保存・公開するシステム）を行うとともに、葛飾区立中央図書館との連携事業としては、①学生による食育月間における読み聞かせ会の実施（平成 30 年 6 月 17 日）、②図書及び読書に関する情報提供と交流を目的とした「ブックシェア事業」への協力：東京聖栄大学学生・教職員おすすめの一冊（展示期間 平成 30 年 9 月 28 日～10 月 24 日）、③葛飾区立中央図書館壁面を活用した東京聖栄大学紹介コーナーの設置（展示期間 平成 30 年 9 月 7 日～9 月 26 日）を行い、連携の充実がなされました。

また改正した図書館利用規程に基づき、平成 30 年度は、附属調理師専門学校の生徒、附属校・園の教職員を規程上の正規利用者として位置づけた体制を開始するとともに、従来は運用で行っていた定期試験前における開館時間の夜間延長について、改正規程に基づく正規の延長開館時間に位置づけ、学生の利便向上を図りました。

## 10 入試・広報活動関係

入試（平成 30 年度実施・平成 31 年度入学）については、適正かつ厳正に実施することを前提として、両学科アドミッションポリシーに沿った選抜を行うべく、指定校制・公募制推薦入試に履修条件を設定するとともに、管理栄養学科については、歩留まり率見込みの精度向上を図る等による定員の適正管理に努めました。

学生募集としての広報活動については、①大学総合パンフの作成・配布、②大学入試に係る関係媒体への情報掲載、③進学相談会・高校内ガイダンスへの積極的な参加、④教職員が直接高校を訪れて本学教育内容等を紹介し信頼関係を築くための「高校訪問活動」、⑤葛飾区立中央図書館での大学紹介展示、⑥主として初夏～秋にかけて学内で実施するオープンキャンパス・入試説明会・受験相談会（平成 30 年度 延 15 回開催）、等々の事項のほか、平成 30 年度は、特に食品学科学生募集の強化策とし

て、「食の体験講座」等による高校生への広報・紹介の工夫、インターネット広告の活用（大手食品会社への就職実績の紹介）、リーフレット「食職図鑑」の改訂を行いました。また、食と栄養を専門とする教育・研究機関として、社会全体からの信頼性を高める広報活動を行う一環として、従来に引き続き、パブリシティ（新聞等のマスコミや公共的な広報紙への良質な話題の提供）に努めました。

募集から選抜までのこのようなアドミッション活動に教職員が一丸となり努力した結果、平成31年4月入学生については、9年連続して学部定員を上回る入学生を迎えることができました。

## <併設校>

### 一東京聖栄大学附属調理師専門学校

#### ・教育課程

調理師養成施設指導要領の改正を踏まえ、かつ大学附属であることを特色の一つとしたカリキュラムを引き続き実施し、その中で、集団調理技術（1回100食以上）の習得を図るため、一部授業での大学施設活用を図りました。

また、卒業生を講師に迎え、西洋料理の特別調理実習を実施したほか、社会人となる卒業後を考慮し、東京都下水道局、日本年金機構による講習会を行いました。

平成31年度以降カリキュラムについて、食を取り巻く環境の変化に対応する観点から見直しを行うとともに、分りやすさを勘案した授業科目名に一部を名称変更することを検討し、所轄官庁との協議を経て届出を行いました。

#### ・調理技術研修生

大学食品学科からの調理技術研修生を6名受け入れました。調理技術研修生は学業に励む一方、体験入学・公開講座のほか地域と連携した社会活動（かつしかスポーツフェスティバル2018、第43回わんぱく相撲葛飾区大会、楽しい音楽会と夏の夜店まつり、新小岩駅東北ひろばまつり2018）等に調理技術を提供できる補助員として協力しました。

また、5名の食育インストラクター希望者には受験資格を与え合格しました。

#### ・施設、設備

1階、4階トイレ手洗い設備の自動洗浄設置

#### ・学生募集

前年度に続き「体験入学」を大学とコラボレーションした同日開催とし、体験実習では、ホテル、レストランで料理長として活躍中の卒業生やテレビ・雑誌等で人気の料理人を講師に迎え実施しました。さらに卒業生子女への入学金免除や学園祭でのホームカミングイベントも行い、卒業生とのパイプの強化にも継続的に取り組みました。また、既卒者・社会人対象の説明会（平日夜間開催）の継続実施のほか、高校生など

に広く普及しているスマートフォンを使った広報活動として、インスタグラムを開始するなど、幅広い入学生の募集努力に取り組みました。

- ・就職支援

5月から就職ガイダンスをスタートし、就職に対する意識づけと、夏期休暇中における職場体験を積極的に勧めました。9月以降は個別相談を中心に指導し、内定率100%を実現できました。

就職状況 内定率 100%

(株)ホテルグランドパレス、(株)第一ホテル両国、(株)南国酒家、(株)カーディナル、(株)味ごよみー心、スエヒロ、(株)東洋食品、(株)メフォス、グリュック保育園 他

平成30年度は、就職指導の充実に資するため、前年度卒業生を対象に1年後の就職定着率調査を行いました。

- ・自己評価の取り組み

学校教育法の規定に基づく自己評価については、全教員（非常勤含む）による自己評価を行いました。また卒業時には、授業評価を含め、アンケート調査を行い、今後の学校運営に生かす取り組みを実施しました。また、自己評価報告書（文科省ガイドライン準拠版）及び学校関係者評価報告書の作成に取り組み、その内容をホームページ上に公表しました。

- ・その他

東京聖栄大学との連携の一環として、東京聖栄大学生を対象とした基礎調理実習講習会を2回（9月、2月）開催しました。

## 一東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園

- ・開園 40年以上の歴史の中で培われた定評と保護者からの信頼を踏まえ、「知育・徳育・食育・体育」を特色とした、わたなべ幼稚園らしい保育の実施と、安全でおいしい自園式給食の提供に年間を通して努めました。

- ・預かり保育

わたなべ幼稚園では、社会・保護者からの要望を踏まえ、預かり保育、長時間保育への積極的対応を行っています（早朝預かり 7:30 から、保育終了後 19:00 まで、長期休業預かり）。給食の無い水曜日の預かり保育、及び長期休業期間中の預かり保育の中で、平成28年度からスタートした希望者への給食提供については、平成30年度も引き続き実施し、仕事を持つ保護者から大変喜ばれました。他園・保育所との競合関係の中で、わたなべ幼稚園のアピールの一つとなっています。平成30年度からは、行事休業日における預かり保育も実施しています。

- ・東京聖栄大学の学生・教員との連携による食育の取り組みとして、平成30年9月には、学生達による出汁を使った食育（種類と味、効果等について）を園児達が体験しました。

- ・幼児教室

幼稚園入園の分母ともなることから、平成 29 年度から幼児教室の利用を促進するべく、バスの増便、幼児教室開催日の増加等を実施しています。

- ・その他

教職員研修による資質向上、避難訓練等による園児の安全確保・事故の未然防止に積極的に取り組みました。

なお平成 30 年 4 月 17 日には、中国厦門（アモイ）市からの「幼稚園日本視察団」12 名の視察受入れを行いました。園児たちによる歓迎の合唱、園長からの概要説明、施設視察、給食の試食等が行われ、陳雯団長から「わたなべ幼稚園の教育理念や教育方針を帰国後の幼稚園作りに生かしたい。」との答礼挨拶をいただき、園児達にとっては、国際交流の良い機会となりました。

## <地域貢献、公開講座>

地域貢献、公開講座等の取り組みとして平成 30 年度は次の事業を行いました。

### 1 公開講座

葛飾区教育委員会との共催で、大学 2 講座（日本の食文化講座、シニアのための健康栄養講座）、専門学校 1 講座（調理実習講座）を実施しました。平均応募倍率は 1.52 倍であり、参加者の満足度も非常に高い結果となっています。なお、講堂で実施する講演形式の講座については応募者全員当選対応を行い、できるだけ多くの方に受講いただきました。

### 2 地域貢献・社会貢献

葛飾区との『包括連携協定』、『災害時等における相互協力に関する協定』、『葛飾区民の食育・健康づくりに関する協定』等に基づき、継続事項として、1 号館南側における「四季折々の花が咲く美化プランターの維持管理」による環境美化活動、「かつしか知っ得メモ」・「かつしかの元気食堂推進事業」への協力による区民の健康増進・食育活動、親子を対象とした食育読み聞かせ会、生ごみの減量を目的とした「食べ切り使い切りメニュー」のレシピ提供、スポーツフェスティバル・かつしかふれあい RUN フェスタへの協力等を学生参加のもとに実施したほか、各種審議会・講演会への教員の派遣等を、地域貢献・社会貢献の観点から積極的に行ないました。

また、（一社）全国栄養士養成施設協会の助成を得て、管理栄養学科教員と学生が、聖栄葛飾祭の 2 日間において、「大人の食育 誰でもできる、かんたんたのしい食事づくり」を行い、参加者の 90%から学生の説明がわかりやすかったとの好評なアンケート結果をいただきました。

食品学科教員と学生は、復興支援の観点から支援を継続している福島県埴町の特産品

開発等、地域の活性化・産業振興の取組みを継続して実施したほか、(公社)日本フードスペシャリスト協会の助成を得て、「日本で食べる外国のたべもの ～本場のもの比べる～」と題する啓発の取組みを、聖栄葛飾祭、高校生対象公開講座の機会を通して実施しました。

このほか、大学が所在する、新小岩地域の自治会・商店会からの要請も踏まえて、地域の活性化事業に参加・協力を行なったほか、学生主体での社会貢献活動・ボランティア活動に継続的・積極的に取組みました。

### 3 講師派遣

82 件 (特別講座を含む)

## <管理運営>

管理運営に関する主要事項は以下のとおりです。

### 1 学園全体の適正運営体制

理事会	平成 30 年度	8 回開催	監事同席 (同日 2 回開催を含む延べ回数)
評議員会	〃	3 回開催	諮問事項審議等
常務理事会	〃	9 回開催	

### 2 適正運営のチェック体制

- ・ 監事による監査 (業務、財産の状況)  
平成 30 年度 教学面を主とした臨時監査として
  - ① 学生に対する進路・指導状況の確認
  - ② 教員の外部資金獲得状況の確認 の 2 件が実施されました。
- ・ 公認会計士による経理面の監査
- ・ 内部監査室による内部監査
- ・ 三様監査の連携と打合せ会の開催 (監事、公認会計士、内部監査室)

### 3 財務基盤強化の努力

- 財務分析による経営状態の把握
- 収入確保並びに支出統制 (人件費抑制努力)
- 外部資金獲得努力
  - ・ 各種補助金
  - ・ 競争的資金
  - ・ 受託研究

- ・ 寄付金

- ①日本私立学校振興・共済事業団「受配者指定寄付金」制度の活用（全額損金）

- ②一定額以上の寄付者に対する本学オリジナル返礼品の実施

適切な資産運用による運用収入の確保

施設貸出しによる収入確保努力

#### 4 教職員人事関係

- ・ 教員年齢構成の改善努力（バランスと活用、将来を見据えた配置、育成）

- ・ FD・SDの推進による資質向上（再掲）

- ・ 平成28年度から導入した「事務系職員自己申告制度」を継続実施

#### 5 防災

- ・ 年次計画に基づき保存食、防災資機材を充実

- ・ 安否確認システム運用訓練（H30.6.4 大学全学生・教職員対象 / 回答率 82.6%）

- ・ 全教職員参加による防災演習（H30.8.22 FD・SD 合同研修会において実施）

- ・ 防火・防災訓練（H30.10.3 学生・生徒 169 名、教職員 45 名参加）

- ・ 普通救命講習会（H30.12.12 学生 39 名資格取得）等を実施し、

学生・生徒・教職員の防災意識涵養と防災行動力の向上・強化を図りました。

- ・ 附属幼稚園は通年に亘り 防犯、防災、避難訓練等を実施

#### <主要工事、施設設備・教育環境整備>

- ・ 1号館階段室壁補修工事

- ・ 給食管理実習棟屋上ダクト・給気ファン更新工事

- ・ 5号館給水管・ポンプ取替更新工事

- ・ わたなべ幼稚園 ブロック塀補強工事

- ・       "               こどものあそぶおしろ 屋根補修工事

- ・ 学内 LAN 更改工事

- (1)夏期学内 LAN 工事

- ①教職員用 PC 更改 62 台、②情報処理実習室 L2 スイッチ更改、③コアスイッチ用 UPS（無停電電源装置）更改、④Windows10 対応作業（Desknet's バージョンアップ、PC 管理サーバの更改等）、⑤ファイルサーバ等の容量増設、⑥附属わたなべ幼稚園複合機セキュリティ設定（複合機入れ替えに伴う設定）

- (2)各校ホームページの常時 SSL 化及びホームページサーバの統合化

- ①大学・附属調理師専門学校・附属幼稚園のホームページ常時 SSL 化完了

- ②大学ホームページは EV 証明書を追加
- (3)冬期学内 LAN 工事
  - ①規程管理システムバージョンアップ 等を実施

以 上

(注) P.1 関係

公益財団法人 日本高等教育評価機構による『東京聖栄大学 平成 30 年度 大学機関別  
認証評価 評価報告書』（平成 31 年 3 月） 抜粋

〈優れた点〉 3-1 単位認定、卒業認定、修了認定

- 単位認定・成績評価の公正を保つために、兼任教員を含めた全教員を対象とした「教科打合せ会」を開学当初から毎年実施しており、教員間で成績評価基準の確認、遅刻・欠席の取扱いなどについて共通理解を図る取組みは評価できる。

〈優れた点〉 4-2 教員の配置・職能開発等

- 全専任教員に授業の公開及び参観を課しており、全学的な取組みとして教授方法の共有と改善を図っている点は評価できる。

〈優れた点〉 5-1 経営の規律と誠実性

- 全学的な防火・防災訓練や災害時安否確認システムの運用訓練を毎年度実施し、災害時優先電話の設置、保存食の備蓄など、安全に対する具体的な取組みは評価できる。